



パワーアップする人材支援策

理工リサーチオフィスの アミーバ大作戦、始動

優れた専門知識を持ちながら、雇用のミスマッチにより入社2、3年で退職してしまったり、専門知識を活かせない場所に就職を決めてしまう学生がいる。一方、滋賀県内では60%以上もの中小企業で、29歳以下の人材に不足を感じているのが現状だ。

お互いのニーズはマッチしている。そこで、理工リサーチオフィスでは、長年の産学連携で培った人脈とノウハウを活かし、学生・企業・教職員が有機的につながるためのシカケ作りをはじめている。名づけて「アミーバ大作戦」。インターネットや新聞・冊子などの媒体（メディア）を使ったよびかけをするのではなく、人と人の直接のコミュニケーションを通じて、それぞれの熱意に共鳴する繋がりを広げていく戦略だ。



「効く！」ポイント1



学生・企業・教職員

心をつなげて太いネットワークを築く、アミーバ大作戦の全貌

立命館大学のびわこ・くさつキャンパス（BKC）にある理工リサーチオフィスでは、学生・企業・教職員が親密なコミュニケーションをとり、心と心で共鳴しあえる場を作ろうと、毎日100名の職員が奮闘している。

「学生の視点に立たなければ、関心を高めることはできない」そう語るネットワーク事業統括責任者・田中武司教授の言葉どおり、学生インターンシップを迎えラシの作成を任せたり、学内の学生団体に足を運び、クチコミでの告知を図ったり。ゆくゆくは企画の段階から、学生の積極的な参加を促したい考えだ。

中小企業にもヒアリング調査を実施している。8月から9月にかけて、雇用に対して関心が高く、企業理念を強く打ち出している企業に参加を働きかけた。また、教職員も授業や研究を通じて中小企業の技術力を伝えたり、事業の報告をしたりと、人のコミュニケーションの中で有機的な繋がりを生み出す、三位一体の取り組みが行われている。

<アミーバ大作戦サイクル>



「効く！」ポイント2



人材戦略を説くスキルアップセミナーから出会いの場の創出まで
アミーバ大作戦の7つの核

「いかにして良い人材を獲得するか」「最近の若者は何を考え、何を求めて就職活動をしているのか」。企業経営者にとっては大きな関心事であるこの疑問をテーマに掲げた「経営者のための優良人材発掘ワークショップ」が平成18年11月17日（木）、キャンパスプラザ京都で開催された。モデレーターに（社）日本能率協会の中島克紀氏を迎え、立命館大学の4名の学生やキャリアオフィスから学生の就職活動の現状について発表を行った。集まったのは22名の中小企業経営者や人事責任者の方々。企業側から中小企業のデメリットについての質問がでると、学生の佐藤良太さんからは「中小企業のデメリットを思い浮かべることができないほど、中小企業の情報が不足していることがデメリット」と、そもそも学生が中小企業に触れる機会がないことに対する厳しい指摘も、また、4人の中には一度就職してもそこでノウハウを吸収し、起業を考えている学生もあり、参加者の関西電子工業（株）小野雄司氏は「わが社でも人材発掘という面で課題があるが、定着率を高めるために、若い人材とコミュニケーションをとっていくことが重要だと思う」と語っていた。

アミーバ大作戦の7つの核



もちろん、学生に対してもスキルアップセミナーは行われている。昨年も各界から著名人を招き、就職や働くということ



活発に意見が交わされたワークショップ

に対するモチベーションを高めるセミナーが開催され、評判をよんでいた。

これらのスキルアップセミナーと並行して行われているのが、マス対マスの大規模な「交流フェア」から、社長に密着しOne to Oneの出会いの場を創出する「社長のかばん持ち」までの多彩な取り組みだ。

「交流フェア」は平成18年12月14日（木）・15日（金）の2日間にわたって開催され、延べ約3,000人の学生が46の企業ブースをみて回り、参加企業の説明に熱心に耳を傾けていた。

参加者Voice



楽しければ、大企業も中小企業も関係ない！

（株）サワーコーポレーションの説明に熱心に耳を傾けていた2回生の女子学生からは「理系の勉強は難しくて、進路に不安を感じていたけれど、サワーさんの話を聞いてみると文系の方でも活躍していて、とても楽しそうだな。将来は大企業・中小企業に関係なく、楽しそうな会社で働きたいと思った」という感想が聞かれた。

また、出展した企業からも「このようなフェアで実際の商品に触れてもらえる機会は、会社に興味をもってもらえるきっかけになる」という歓迎の声があがっている。さらに現場では、ブース内の回遊性を高めようと、スタンプラリーを行うなどの工夫も見られた。スタッフの気配りが、企業と学生のコミュニケーションに直結したようだ。



楽しそうな表情の話題に会話が弾む交流フェア

出会いの場は他にも、20名ほどの若者がバスを借りて企業を回る「企業訪問ツアー」や、研究課題に携わるボスドクと、中小企業との出会いの場を作る研究センターとの「共同セミナー」が行われている。

これらのセミナーやフェアに参加した学生が、今年も恒常的に参加するためのシカケ作りが今後の課題だ。7つの事業がさらに有機的に絡まりあえば、強力な人材支援になることは間違いないだろう。

この事業に関する
質問・お問い合わせ先

立命館大学 理工リサーチオフィス

〒525-0058 滋賀県東海市野路東1-1-1

TEL.077-561-2802 FAX.077-561-2811 URL <http://www.itsumai.ac.jp/acd/re/b-ilelecn/>

